

レクイエム－故・小柳 弥先生を偲ぶ－

菊 岡 武 男

まえがき

長い前書きになりますがお許し下さい。

平成8年4月7日の、三重大名誉教授・小柳弥先生ご逝去から1年4か月が過ぎました。昨年の春秋誌には、三翠俳句会で小柳先生と親交の深かった榊原先生から胸に迫る追憶のおことばをお寄せいただき、小柳先生を慕う私の思い出までお述べいただいたと深謝したのであります。

しばらく時を経て、本年8月20日、三重大学開学50年史編集委員会の主催にて、荒井先生、井沢先生、学長先生、中村事務局長、編集委員の2先生及び私も加えていただき、三重大学附属図書館長室にて、大学創設期、大学紛争、県大移管、将来展望を主テーマとした座談会が行われました。

その席上、私は、5学部が一つの団地にまとまることができた背景には、小柳先生の存在を忘れてはならないことを申しあげたのであります。

そのことから、改めて小柳先生を追慕し、三重大学発展の影の功労者にこの小文を捧げ、ご冥福を祈りたいと存じます。

キャンパス用地確保に奔走された小柳先生

当初、2学部で発足した三重大学を、上浜地区において、総合大学化することを目指しキャンパス用地確保に実質的に動き出したころは、小柳先生は農学部長ご在任中（昭和35年4月から同43年3月まで8年間）でありました。

附属農場を含む農学部用地以外に、大面積の土地確保（大部分は農地）が必要でありましたが、農地買収（農地転用）は大変な難事でありました。小柳先生は、当時の農林省農地事務局（名古屋）勤務の教え子と鋭意折衝を重ねられ、円滑に計画通りの買収を可能にされました。小柳先生のご手腕に、当時の吉村事務局長は深い敬意を表したと聞いています。

また、県立大学の移管に当たっては、附属農場の移転をいち早く決意されたようであり、仄聞するところによると、「県立移管のため、附属農場を提供する用意があるから、早期に移管が実現するように取り計らっていただきたい」旨の書面を文部省の所管部局に提出されたようであります。

当時、農学部では、附属農場の移転についてようやく論議が始まったばかりであり、

その帰趨は定かではなかったにもかかわらず、このような英断をされた小柳先生の炯眼には敬服のほかありません。

新農場を椋本に立地させるに当たっても、並々ならぬ配慮をされ、農業土木学科出身の県会議員（小柳先生が佐賀県庁ご勤務当時の部下でもありました）と連携を密にして、移転に伴う必要経費を県から捻出させることに成功されたのであります。

当時、全国的に蔓延していました大学紛争は、農学部にも寮闘争の形で広がりを見せつつありまして、農場移転問題も一步間違えば、学園紛争に巻き込まれる事態でありましたが、今思えば、附属農場移転のご決断は、三重大学の総合大学化実現のための小柳先生の悲願でもあったのでしょうか。

その他、男子寮建設のための敷地の確保についても、三重県住宅供給公社勤務の教え子と綿密に連携され、成功に導かれたと聞いております。

三重大学・三翠志登茂会の育ての親としての小柳先生

現在、三重大学生物資源学部を母体とする三重大学三翠同窓会は、いくつかの構成同窓会その他で構成されています。その一つとして三重大学三翠志登茂会がありますが、今日の姿に育て上げて下さったのは小柳先生であります。

小柳先生は、昭和13年12月に鹿児島高等農林学校教授から三重高等農林学校教授（農業土木学科）に迎えられるや、現在の三重大学三翠志登茂会の前身の三重高農農業土木学会の中心的存在として活躍され、その後、三重大学となってからは、三重大学農業土木学会に改組され、その強化のため自ら陣頭指揮をとられ、今日の礎を築いていただきました。ご自身は同窓生ではないのに、三重の土木をこよなく愛され、同窓生の誰よりも熱心に農業土木学科卒業生集団の育成強化にご尽瘁されたのであります。

その後、三翠同窓会会則の改定に歩調を合わせ、三重大学農業土木学会は現在の三重大学三翠志登茂会に組織替えを行い、今日に至っておりますが、その改組発足に当たり、小柳先生の多年のご功績を讃え、名誉会長に推戴したのであります。

小柳先生に教えを受けた者は、みな、先生を三重大学志登茂会のシンボリックな存在として崇め、讃えてきました。先生の慈愛に満ちた温容をもって諄々として諭された垂訓は、小柳イズムとして、門下生はもちろん、後輩に至るまで今なお連綿として受け継がれているのであります。

私にとっての小柳先生

私は小柳先生の直接の門下生ではありませんが、小柳先生に拾われて、昭和28年、農林省の役人から三重大学教官にいただき、それ以来、ご退官後も絶えずご指導

を受け、そのおかげで大学人として無事責務を果たすことができたのであります。その意味では小柳先生の門下生の一人でもあり、小柳先生は私にとっての大恩人でもありまし。

人格高潔にして、無欲恬淡であり、公平無私を貫かれた小柳先生から受けた数々の教訓は終生忘れることができません。小柳先生、まことに有り難うございました。

三重大大学の総合大学化の礎石を築かれた小柳先生を偲び、また今日の三重大学三翠志登茂会を育てていただいたご功績を追憶し、さらには私に賜った幾多のご教訓を想い出し、春秋誌面を拝借して、今は亡き小柳先生を追憶し、改めてご冥福をお祈り申し上げます。

合掌。

(平成9年8月)